

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスで、職員全員で話し合いケアについて統一を図っています。	法人の四つの理念をホームとして更に具体化した独自の理念を四つ掲げ、更に具体化するための職員むけの理念も話し合いの中で決めている。その一つの「笑顔で寄り添う」という理念を重視し利用契約時に本人や家族に説明している。理念や運営方針を廊下の壁に掲示し、隔月発行の「まんでん通信」にも記載し、外部の方にもホームの目指す方向を示している。理念にそぐわない言動が見られた場合には職員同士で注意し合いその場で解決するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新聞を作成し、回覧をお願いしています。散歩、買い物など出かけて挨拶をかわしたりしています。	日頃から隣組とのおつきあいを大切にしながらの防災面でも協力が得られるようになっており、雪かきの応援もお願いしている。地区の民生委員も夏場の草取りに来訪している。ホームの「まんでん通信」を回覧板で隣組に廻し、利用者の名前は伏せているがホームの活動を伝え、離設の時に利用者の顔や姿がわかるように写真も掲載している。地元の高校生のボランティアやギター演奏のボランティアなどが来訪し利用者で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で認知症関連講習会を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告をし意見要望等を聞いています。	家族代表、総代、組長、民生児童委員、消防署職員、駐在所員、役場担当職員等が出席し、奇数月の月末に開催している。利用者の都合を考え午後7時から開催し、活動状況や利用状況について報告し、質問や意見を伺い、アドバイスや情報を頂いている。今年2月の大雪時の貴重な経験を基に対策を検討したり、利用者の離設などについて話し合うなど、ホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケア会議に参加しています。認定更新時、担当者と連携をとっています。	ホームに空床がでた時には町や隣接の市町村に照会をし受け入れが可能であることを伝え、協力をいただいている。現在の利用者は同じ町内からの方で何かあれば町担当者と連絡を取り、相談している。介護保険の更新申請は基本的には家族が行っているが、依頼があれば代行もしている。認定調査員が市町村単位で来訪し調査がホームで行われ、職員が補助として立ち会い、本人の状態を伝える。町主催の地域ケア会議には法人専属のケアマネージャーが出席し、各事業所に情報を流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての学習を、ケア会議等で行っています。玄関にチャイムを付け、鍵はかけておりません。	外部研修等に職員が参加し伝達研修をしたり、法人やホームの学習会、ケア会議等で拘束をしないケアについての意識づけをしている。転落のリスクを考え、ベッド脇の床にマットレスを敷くこともあるが家族にも説明し承諾をいただき記録も残し、早期にはずすようにしている。離設の時には隣組の方の協力を得られるようになっており、普通の家庭のようにチャイムを聞くと玄関を開けて招き入れている。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議等で学ぶようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、ケア会議等で復命しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明し、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にアンケート等をお願いし、意見要望を出していただいております。訪問時にも、お話を伺うようにしています。	自分の意見や思いを言葉で表わすことのできる利用者が半数以上いる。言葉で表現できない利用者については状態に合わせ職員が声かけし目の動きや仕草で判断している。家族が来訪した時には本人の状態や様子を報告しながら意見・要望を伺っている。以前は家族アンケートも行っていたが家族も高齢であったりして記入形式でなく様式に沿ってインタビュー形式で聞き取り、ホームの運営に活かしている。請求書と同時に一人ひとりの現況報告を書面で家族に送付したり、ホームの「まんでん通信」を送り意思疎通に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見を聞くようにしています。	法人の各事業所の管理者・リーダー会議が1～2ヶ月に1回あり、カンファレンス(月1回の定例会議)、ミーティング(随時)も行われ、コミュニケーションを図っている。カンファレンスでは主に利用者一人ひとりのケアについて話し合い、研修報告、係からの報告、運営推進会議の報告などが行われ課題について検討を加えている。要望や業務に関する提案等は検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調管理には、十分注意しています。研修会等にも参加できるように、声掛けをしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には、出来る限り参加できるようにしています。ミーティングでも報告しています。案内など貼り出しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会等にも参加して、学習会や交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指しています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の様子を見たり、お話をしたりしています。 ホーム内の見学もしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のお話を(これまでの経緯など)を、ゆっくり聴くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思いを聴きながら、必要としているサービス支援を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが笑ったり、喜んだり、悲しんだり、困ったことを感じ、協働しながら生活するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも、出来る限り来所していただき、ご本人とゆっくり過ごせるようにしています。 イベントを計画し、参加していただくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いに出かけたり、来所していただいています。	近所の方や昔の職場の方が訪れており、お茶を飲んで話しをしていただいている。会話が不自由な方には職員が間に入り代弁することもある。家族の協力を得ながらお盆に一時帰宅する方やドライブを兼ね自宅付近を巡り食事をしてホームへ戻る方もいる。ホーム利用前から買い物をして道の駅、雑貨店などに職員と一緒に出かけることもある。法人の人事異動は基本的になく、職員の勤務年数も長いことから馴染みの関係となっており、一時帰宅した利用者が「まんでんに帰りたい」ということもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に入る時間以外は、共同スペースで職員も一緒に過ごしています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外でお会いすると、お互い声をかけたりして、ホームに顔を出してくれたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録に本人の言ったことなどを書くようにしています。 センター方式などを利用して、アセスメントしています。	大勢が生活する家庭的な雰囲気の中で遠慮がちの方もいるので日頃の会話を大切に一人ひとりの思いを聞きだすようにしている。言葉で意向を表わすことが難しい方には声がけで二者択一か複数の選択肢の中から選んでいただいている。利用開始時に「できること、できないこと」、「きらいなもの、すきなもの」などについて細かく分析し計画に取り入れ支援している。昔の仕事の関係から継続して塗り絵をされている利用者もおり、細かく工程を分け見事な作品に仕上げ、ホーム内に掲示している。レクリエーションや役割についても押し付けるのではなく利用者一人ひとりの思い通りになっていただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に出来る限り教えていただいたり、本人とお話の中から聞き出しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、出来ないこと、嫌なこと、嬉しいことなど、シートを使用し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスなどで、ケアの在り方など意見交換しています。 ご家族にも連絡しています。	職員全員で月1回カンファレンスを行い、利用者一人ひとりのサービス内容について進捗状況をふり返り、状態が変わった時には随時ミーティングを行い情報を共有している。介護計画は同じ法人の専任のケアマネージャーがカンファレンス結果や本人の状態にあわせ長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月で立てている。利用者によっては目まぐるしく変わることもあり1ヶ月に1回計画を変更することもある。見直しは基本的に3ヶ月で行っており、モニタリングに関しては個人ノート、全体ノート等を参考に状況を確認し遅番の日勤者がケアプラン実施表に「○」、「×」を記入している。未実施の状態が続けば計画を手直しすることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、ご本人の言葉、エピソードなどを記入しています。 ケアプラン実施表を記入し、実践するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診など外出には、柔軟に対応しています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員に、地域の消防、警察、民生児童委員などお願いし、ホームの理解をいただき、協力もしていただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご家族の要望に応じ、職員同行または代行をしています。情報提供もしています。	協力医療機関でもある内科医の往診が月1回あることから家族の要望（通院に付き添えないなど）等もあり、かかりつけ医を協力医に変更するが多い。毎月の往診の前に協力医療機関の看護師が訪れ状態を把握し往診の際に役立っている。内科以外の科目の受診については家族の対応を基本としているが都合により職員が同行することもある。看護師が常駐し、利用者の健康管理や相談にのっており、場合によっては同じ法人の他事業所の看護師や協力医療機関の看護師と連携し対応している。歯科については依頼をすることで訪問治療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しています。24時間連携が取れるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し、退院までの間、ご家族や病院と連絡を密に取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う同意者をいただいております。	利用契約時に重度化に伴うホームの対応を説明している。直面した時には医師から説明をいただき、改めて同意書を頂いている。今年の夏に1名の方の看取りを行っており開設以来8名の方がホームで最期を迎えている。看取り期間には基本的に家族の付き添いをお願いしている。職員の在籍年数も長く看取り支援についても十分理解しており、急変時の対応も戸惑いなく取り組むことができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練をしています。マニュアルなど表示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者さんと共に、避難訓練を行っています。連絡網の確認も行っています。	年2回防災・避難訓練を実施している。今年度は夜間想定と昼間想定自主訓練を行い、通報や避難誘導訓練、消火器の取り扱い訓練を行っている。また、通報装置が作動すると近所の2軒と職員の緊急連絡網にも自動的に回るようになっている。今年度、法人として救急救命蘇生訓練を2回に分けて消防署で受講し全職員が参加している。2～3ヶ月分の飲料水や食品の備蓄があり3年に1回交換している。今年2月の大雪を経験し、職員がいつでも宿泊できるように体制を整備した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちも大切に考え、自分にされたらどうか、言われたらどうかを常に心に置いて、声かけをするようにしています。	家族に本人の馴染みの呼び方を伺い、名前に「さん」を付けてお呼びする機会が多い。「～します」という丁寧語では距離感を感じることもあり、利用者によってはお世話いただいているという遠慮がちな方もいるので、上から目線を常に戒め、理念を共有しつつ、利用者一人ひとりの人権と尊厳を守り、その人らしく生活できるように支援している。利用状況によっては3ヶ所あるトイレの1つを男性専用にし、女性と分けている。入浴や排泄の介助については同性介助を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんに合わせた声かけをして、表情を読み取ったり、日々の会話の中で働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを大切にし、それに合わせて生活していただくように希望を尋ねたり、相談しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る人は、自分で選び着替えていただいています。 出来ない人は、一緒に着替えるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備したり、食事したり、後片付けをしています。	一部介助の方や全介助の方がそれぞれ若干名おり、ミキサー食やトロミを必要とする方もいる。調理専門の職員が彩り豊かに作っているが利用者でできる方には盛り付け、下膳などをお手伝いしていただいている。月に1回同じ法人の配色サービスを使い味わったり、やはり同じ法人の運営しているケアホームでの「そば打ち」の見学に出かけ試食などもしている。ホームの庭で流しそうめんをしたり、回転寿司などの外食も楽しんでいる。近所の方や家族から野菜などの多くの物を頂き、ホームの畑の野菜も加え調理し食卓にのせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の体調と摂取量を把握し、好きなものや食べやすいものを出すようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをしています。 歯科衛生士によるケアも必要に応じてしています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を取り、支援しています。	一部介助を必要とする方がいるが排泄記録や一人ひとりの排泄リズムに合わせ、行きたい時にトイレへ行くことができるように支援している。また、プライバシーに配慮した誘導をし、殆どないが失敗してしまった利用者には自尊心に配慮し居室やトイレで対処している。トイレも3ヶ所あり車椅子の方にも十分なスペースが確保されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を取り、予防に心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自己決定して入浴していただいています。	入浴の手順がわからず職員が見守りながら声がけしたり、立位がとれない方にはリフト浴で職員二人が安全に配慮し支援している。日曜日以外は毎日入浴が可能であり、週2~3回入浴している。入浴を拒む利用者には無理強いせず次の日に回すなど少なくとも週1回の入浴につなげている。冬場は脱衣場にもヒーターを入れ温度差のないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい時に、居室やこたつなど、自由に休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスなどで様子を確認し、看護師と連携しています。連絡帳など活用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること、楽しみ事などを見つけ、声かけしてお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、戸外に出掛けるよう支援しています。(ドライブ、買い物、花見など)	高齢のため外出することが億劫になってきているが、天気のよい日や暖かい日にはホーム周辺を散歩したり、夏場は南側の畑で草取りや水やりを職員と一緒にしている。同じ法人の運営している介護ステーションのレクリエーションに出かけたり、車で買い物に出たついでにドライブすることもある。行事外出として近くの公園の花見、隣町の赤ソバ祭りやぶどう狩りなどに出かけている。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には、使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など希望があれば、自由にお話していただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりしています。 温度、湿度計で管理しています。 利用者さんの声に耳を傾けています。	食堂からは雪をかぶった中央アルプスの仙丈ヶ岳を望める。ホームは天竜川右岸の高台にあるので眺望も良く、北側には広大な田畑が広がっている。建物中央には一段と高くなった畳の小上がりがあり大きなコタツが造られている。利用者が少人数に別れて食事ができるようにテーブルが配置されており、キッチンからはテーブルに座る利用者と話しをしながら食事の準備もできる。壁には利用者の塗り絵などが張られていた。廊下には掴まらなくても良い、平形の木製の手すりが付けられており、太い梁や柱も木肌そのものを見せ安らぎを覚える。事務所横の掲示板には個人情報保護、グループホーム倫理綱領や行動指針等も掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置き、場所づくりをしています。 利用者さん同士居室の利用もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物品を持って来て使用していただいています。	各居室の入口には表札代わりに花が描かれたプレートを取り付けている。居室が中央の共有部分を中心に「T字」型に配置されているので角度によっては全く入口が見えない居室もありプライバシーに配慮がされている。居室に入ると整理用の棚があり、窓も広く、窓から南アルプスが見える居室やホームの畑にやってくる動物たちを見れる居室もある。誕生祝いのカード、家族写真、洋服、飾り物なども持ち込まれている。自宅から持参されたものに囲まれ自分らしさを出しながら落ち着いて暮らすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、スロープ、滑り止めなど取り付けています。		